

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 太田亨 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作 榊原健一
 福田真二 森元良太 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 辻村礼央奈 米田龍大
 若松千裕 上山智美 横山有紀

【概要】

学外での臨床実習を開始する前に、言語聴覚士として適切な技能および態度を学ぶ。評価は、客観的臨床能力試験（OSCE）により行う。客観的臨床能力試験（OSCE）では、現実の診療現場を再現した状態で臨床能力を評価する。

【学修目標】

<一般目標>

言語聴覚療法の専門知識と技術を、医療現場において適切に実施するために、言語聴覚療法プロセスを学習し、言語聴覚士としての基本的な技能と態度を行うことができる。

<行動目標>

1. 発声・発語、摂食・嚥下、高次脳機能、言語発達、聴覚に関する正常構造と機能について説明できる。
2. 発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害のメカニズムについて説明できる。
3. 発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害を、科学的かつ医学的エビデンスで解析できる。
4. 発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害を評価できる。
5. 発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害に対する治療計画を立案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	客観的臨床能力試験（OSCE）について知り、その心構えを学ぶ。	福田真二
2	発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害の基本	発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害に関する基本事項と体系的な考え方を学ぶ。	全担当教員
3	言語聴覚士に必要な基本的実技	発声・発語、摂食・嚥下、失語・高次脳機能、言語発達、聴覚障害に関する基本的実技を身につける。	全担当教員
4	発声・発語障害、摂食・嚥下障害の評価	発声・発語障害、摂食・嚥下障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
5	失語症・高次脳機能障害の評価	失語症、高次脳機能障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
6	言語発達障害の評価	言語発達障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
7	聴覚障害の評価	聴覚障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
8	総括	第1回～第7回講義内容の総括と習熟度の確認を行う。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

客観的臨床能力試験（OSCE）100%

客観的臨床能力試験実施後、問い合わせがあった場合には疑問点に答える。

【教科書】

各領域の講義で紹介された教科書および配付資料

【備考】

授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示

- ・ 授業に関わる連絡はmanaba、i Portalを利用する。
- ・ 資料の配信はmanabaを利用する。
- ・ 学習課題の提示はmanabaを利用する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書または配布資料を読み、理解に努める。また、理解できない部分はチェックしておくこと。

(80分)

復習は、授業範囲の教科書および配布資料を用い、また実技練習を通じて、講義で学習した内容を各自で深めること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

田村至、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、辻村礼央奈、若松千裕、上山智美、横山有紀（言語聴覚士）

中川賀嗣、太田亨、才川悦子（医師）

橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

田村至、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、辻村礼央奈、若松千裕、上山智美、横山有紀：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する知見や各障害の評価・リハビリテーションについて講義を行う。

中川賀嗣、太田亨、才川悦子、橋本竜作：医療機関での実務経験とその知識を活かし、講義を行う。